

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年9月30日現在

今月の重点活動

(JAぎふアスパラ塾開塾)

JAぎふは8月27日、黒野農産物流通センターで「JAぎふアスパラ塾」の開塾式を行った。塾生をはじめJAぎふ職員、講師を務める普及指導員ら合わせて20人が出席した。

同塾は、アスパラガス栽培の基本技術の習得やハウスの設置や管理作業の実習を行う。年間6回程度のカリキュラムで学ぶ。今年度は塾生14人が入塾。



【写真】開塾式の様子

主要農作物の生産振興

■ 水稻

(早生品種の収穫) (岐阜市・本巣市・山県市)

8月下旬の特別栽培米ミルキークイーンを手始めに、コシヒカリ、ひとめぼれの順に収穫が進んだ。平年並の収穫時期を迎えたが、コシヒカリは収穫直前に台風が接近したことから倒伏ほ場がやや目立った。農業普及課としては、ほ場巡回を行って登熟状況を調査し、JAや生産者に対して適期収穫の啓発を実施した。

■ いちご

(平成23年度いちご新規就農者順調に定植完了)

今年度のいちご新規就農者3名は、育苗管理に苦労しながらも定植作業も完了させた。今夏も高温で育苗管理は難しく、若干の根腐れや病害も発生したが苗不足になることはなく本ぼの定植作業は終了した。今後は、年内収量で100万円を目標に管理を進めていくが、農業普及課も栽培管理について指導を行っていく。

■ にんじん

(冬にんじん大雨被害)

8月23日未明のゲリラ豪雨(各務原市消防所データで時間雨量71mm)により、播種直後のにんじん畑の表土が流出するなど被害を受けた。

8月29日ににんじん部会、各務原市役所農政課、JAぎふ、岐阜農林事務所で行った打ち合わせを行い現地確認を実施した。今後、栽培管理指導を行っていく。

■ タマネギ

(23年産たまねぎ栽培開始)

9月8日頃から早生品種の播種が始まっている。

アグリ石神が糸貫玉葱振興会に参加し、極早生品種の青切出荷および、晩生品種の加工向け出荷を行うこととなった。

岐阜市園芸振興会では早生品種「浜笑」「浜の宝」品種試験を行うため、調査等、支援を行う。

■ブロッコリー

(定植作業完了)

J A ぎふブロッコリー生産連絡協議会では9月1日から各地で定植作業が行われており、定植前後の管理について指導した。2条植移植機の追加導入で、面積が拡大しても作業の効率が向上した。しかし、台風12号や日照不足等天候不順による苗の確保に苦労した。また、協議会と当事務所では、1月出荷に向けた低温肥大性のある品種の探索試験ほを設けた。次年度導入品種の検討選定する予定。 【写真 定植の様子】



■かき

今年の柿の階級予測！

岐阜県柿生産販売会議が9月7日に開催され、今年度の柿の販売に向けて方針が定められた。その中で毎年課題となっている果実肥大予測について、今年度も普及課から過去の肥大データを基に今後の気象状況別に推測し、情報提供した。今後の販売に活かせるように精度を高めていく予定。

担い手の育成・確保

■集落営農組織・営農組合

白山能郷の郷営農システム研究委員会

コシヒカリの収穫時期を迎え、機械の共同利用へ向けた取組の一つとして、コンバイン（4条）のデモ機実演が行われた。約1haの収穫作業を行い、既存コンバイン（2条）に比べ作業効率が良く、参加した農業者も関心が高かった。今後、費用対効果などを試算し、集落営農サポーターと研究委員会へ機械の共同利用等に向けた提案を行う。

地域の動き等

■糸柿振興会発足（本巣市）

本巣市の糸貫柿振興会と真正柿振興会の合併が8月23日の合同役員会で合意され、9月9日の地区役員総会にて正式に決定された。また、振興会名は糸柿振興会として、委員長には加藤泰一氏（旧糸貫委員長）が就任した。会員数505、栽培面積約200haの県内一の振興会となった。また、新糸貫選果場の竣工式が9月29日に挙行され、「早秋」の共選が10月初旬から始まる。

■岐阜地域農業担い手情報交換会を開催

9月7日に岐阜地域農業担い手組織と新規就農者等とのネットワークづくりを目的に庁舎大会議室において情報交換会を開催した。当日は、担い手4組織と新規就農者・研修生、農林事務所等関係者60名の参加があり、「感動を共感できる仲間づくりを目指して」と題して、可茂地区指導農業士竹川初美さんの講演を行い、新規就農者と研修生の紹介と新規就農者3人による事例発表を行った。



【写真 新規就農者事例発表の様子】

